

### ジベレリンによるキャンベル・アーリーの摘粒省力の実用化

長田一美・山村寛美・立石富士男・三島励  
貝田隆義・栗田周助・村上康則・安永春海  
(福岡県農業改良課)

OSADA, K., YAMAMURA, H., TATEISHI, F., MISHIMA, H., KAIDA, T.,  
KURITA, S., MURAKAMI, Y. and YASUNAGA, H.  
Investigation on the Simplified Practices for Berry Thinning on  
Grape Cluster by the Spray of Gibberellin.

ジベレリンによるキャンベル・アーリーの摘粒省力化の実用性について、1965年から県下5カ所において展示・比較検討を行なったので、その結果を報告する。

#### 処 理 の 方 法

GA3の濃度は5ppmとし、初年度はエアロールOP、100ppmを加用したが、2年目以降は加えなかった。供試樹はすべて並行整枝・短しようせん定のものとし、散布(処理)時期は新しょうの5割以上が3~4枚展葉したときとした。散布は肩掛噴霧器または動噴を用い、10a当り60~70ℓを散布した。なお、岐肩落しや穂軸の切りこみなどは初年度は結実確定後、2年目以降は開花前に実施した。

#### 成 績 お よ び 実 用 性

1. GA処理区は穂軸の伸長に伴って摘粒前の着粒程度が密着ないし過度密度一多摘粒を要する果房の率を低めた。しかし、成熟果房に緑色小果粒が多く、摘粒の方法や程度を誤ると過度摘粒となって秀品果房率を低下させる。なお、成熟果房はかなり大きくなるので10~20%の着房制限が必要である。

2. 穂梗も長くなり袋掛けが能率化されるとともに収穫作業を容易にし、果粒に鉄傷をつけることの少ない点も好都合である。しかし、長過ぎるものでは荷造りの際、再びせん除を要するものもある。なお、岐肩の穂軸を残しておくとききたまま残って袋掛けに支障を来すこともあるので、岐肩落しの際短く摘んでおくことが必要である。

3. GA処理樹の翌春のほう芽は幾分遅れる傾向にあるが、重複多量処理などを行わねば実用的には差支えないものと思われる。

4. 果房の整形、摘粒労力で20~25%程度の省力化が可能であり、さらに、袋掛けでは30%前後の能率化ができた(第1表)、その経済性は十分に認めることができた。ただ、樹の状態や処理方法、摘粒の方法などが適当でないと初期の効果をあげ得ないことがある。

5. 以上から、短しようせん定で樹の生産体制が整い、実止りの良好な園ではGAによる摘粒の省力化は十分な実用性があるものと認める。ただ、その普及には十分な注意が必要である。

第1表 果房の整形、摘粒および袋掛けの所要時間 (久留米 1966)

区 別	果房整形		摘 粒		小 計		袋 掛 け		合 計	
	時間 分	比数	時間 分	比数	時間 分	比数	時間 分	比数	時間 分	比数
G A 区 { 実 時 間 10 a 換算	4. 12		14. 25		18. 37		9. 30		28. 07	
	11. 22		39. 00	(75.9)	50. 22 (6.3人)		35. 45 (4.5人)	(71)	86. 07 (10.8人)	(68.4)
無処理区 { 実 時 間 10 a 換算	5. 9		17. 18		22. 27		13. 00		35. 27	
	15. 10		50. 55	(100.0)	66. 05 (8.3人)		49. 50 (7.5人)	(100)	115. 55 (15.8人)	(100)